

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-610	A-110	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Relation of Alcohol Intake to Kidney Function and Mortality Observational, Population-Based, Cohort Study 飲酒と腎機能および死亡率の関係、地域住民を対象とした観察的コホート研究		
<b>執筆者</b>		
Cirillo M, Bilancio G, Secondulfo C, Iesce G, Ferrara C, Terradura-Vagnarelli O, Laurenzi M.		
<b>掲載誌</b>		
Nutrients. 2022 Mar 18;14(6):1297. doi: 10.3390/nu14061297.		
<b>キーワード</b>	<b>PMID</b>	
飲酒、ワイン、eGFR、死亡率、疫学	35334954	
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>飲酒が腎機能に及ぼす影響については相反するデータがある。本研究では、飲酒と腎機能および死亡率との関連について調査した。</p> <p><b>方法：</b>イタリア中北部 Gubbio 市の住民を対象として、1983-85 年のベースライン（試験 1）、1989-92 年（試験 2；6 年追跡）および 2001-07 年（試験 3；20 年追跡）のフォローアップの 3 試験を実施した。試験 1 で 18 歳以上の成人 4,524 人を対象とし、死亡データは全国登録の地方データから収集した。Cox モデルを用いて試験 1 での飲酒と死亡率との関連性を解析した。腎機能の指標は eGFR を用いた。各試験時の質問票より飲酒の習慣的な一日飲酒量（g/日；0、1-24、25-48、&gt;48）を分類した。3 試験とも eGFR データが得られた 2069 人を対象とし、多変量線形回帰を用いて飲酒量と eGFR の横断及び縦断的解析を行った。</p> <p><b>結果：</b>横断的にいずれの試験も eGFR と飲酒量は正の関連があった（試験 1：回帰係数 B=1.70, p&lt;0.001；試験 2：B=1.03, p&lt;0.001；試験 3：B=0.55, p=0.010）。縦断的には試験 1 の飲酒量と試験 1 から試験 2 の eGFR 変化量（B = 0.133, p=0.002）、および試験 2 の飲酒量と試験 2 から試験 3 の eGFR 変化量（B = 0.065, p=0.004）について、eGFR の低下が有意に少なかった。Cox モデルでは非飲酒群と比較して 25g/日以上飲酒は死亡率の差と関連しなかったが、1-24 g/日の飲酒はコホート全体（HR = 0.77, p = 0.003）および eGFR &lt; 60 mL/min×1.73 m<sup>2</sup> のサブグループ（HR = 0.69, p = 0.033）で死亡率低下と関連していた。</p> <p><b>結論：</b>イタリアの一般成人集団において、飲酒量が多いほど横断的に eGFR が高く、縦断的に eGFR の低下が少ない可能性が示された。さらに適度な飲酒は eGFR が低下した人の死亡率低下にも関連しており、加齢に伴う腎機能の低下に対して好ましい影響を与える可能性があった。</p>		